



さんぽ保健師コラム

(2020 年 霜月号)

はいたい！産業保健専門職（保健師）の千葉です。

11 月に入り、2020 年もそろそろ残り僅かになってきました。今年は新型コロナウイルス感染症の流行やそれに伴う新しい生活様式によって、皆それぞれに変化を受け入れて順応していくことが求められる一年でしたね。

「私たちの働き方」にも様々な変化がみられました。例えば会議や研修のオンライン化やテレワークなどの推奨です。コロナ禍の状況によって図らずも導入が進んだ、オンライン化やテレワークのメリットはたくさんありますね♪時間の有効活用やコストの削減はもちろんのこと、多くの離島がある沖縄では、会議や研修のオンライン化が進むことで島を超えての参加が促進され、情報の共有化や様々なサービスの向上にも繋がっています。

ただ、テレワークなどで注意することの一つに「コミュニケーションの希薄化」があります。上司・同僚とのコミュニケーション不足によって、意志疎通がうまく図れない場合や、人によっては孤独感を感じることで生産性の低下に繋がることもあります。オンライン化やテレワークを進める上では、社内でコミュニケーションの大切さについて改めて考える機会を設けていくことや対策を考えることも同時に取組んでいきたいものです。

さて、沖縄産保センターでもオンライン研修に取り組み始めています。

11 月 10 日に「治療と仕事の両立支援コーディネーター応用研修」をオンライン参加と会場参加のハイブリット形式で開催しました。この応用研修は、基礎研修を踏まえてより実践的な両立支援の応用力を高めること、そして沖縄県内の両立支援コーディネーターの情報交換・ネットワーク作りの場の構築を主な目的としています。そのため事例検討とグループワークの時間を取り、オンライン班と会場班それぞれでグループ分けをしてディスカッションを行いました。

参加者の皆さんの感想を少しご紹介します。「グループワークが出来て理解が深まった」

「他社の取組みを聴くことが出来て、もっと踏み込んだ支援をしても良いことが分かった」

「実践できるか不安が続く中で、少しでも現実味のある議論ができた」事例検討とグループワークが良かったという声が多数ありました。前半の講話の感想では「社会制度のことがよく分かった」「メンタル分野での職場復帰のポイントが理解できた。身体の病気で長期休職していた方への支援の参考になった」などこちらも好評でした。アンケートの結果からも、コーディネーター同士の横の繋がりを深めること、職域・職種を超えてそれぞれの情報を共有し連携することの重要性を感じました！

またテーマを変えて開催する予定ですので、コーディネーター基礎研修の受講者の皆さま、今後もたくさんのご参加をお待ちしております。

(沖縄産業保健総合支援センター 産業保健専門職 千葉 千尋)

